

施策1 環境意識を高めます

基本目標

1 次世代を思い、みんなが環境を守ることに参加し、環境に配慮したまち

環境教育・環境学習を推進し、環境への意識向上及び共通認識を図るとともに、次世代に負担を負わせないために自発的に取組を行うなど、環境に配慮したまちを目指します。

1 現状と課題

(1) 現状

- 環境問題は、世界規模で取り組むべき地球温暖化対策から地域の自然環境保全まで、多岐にわたり複雑化しています。

しかし、その多くが私たちの日常生活や事業活動が原因となっていることから、私たち一人ひとりが、環境について学習し意識を高め、環境に配慮した行動を実践していくことが重要です。

- これまで本市は、学校における環境教育のほか、市民参加型の環境イベントである岐阜市まるごと環境フェア^{※11}や市民ニーズを踏まえた出前講座^{※12}等を開催し、環境意識を高めるきっかけの場の提供に努めてきました。

また、環境学習を行う団体等の活動支援としては、環境保全団体等との連携によりこどもエコクラブ^{※13}の支援などを積極的に行ってきました。

さらに、環境意識の醸成と情報共有を図るため、ホームページ、広報ぎふ、テレビやラジオなどの媒体を活用し、環境情報の発信に努めてきました。

しかし、環境イベントへの参加者数や出前講座の開催数が横ばいあるいは減少傾向にあるほか、学校での総合的な学習の時間が減少し、環境教育は削減傾向にあります。

- 環境教育・環境学習の場は環境イベント等だけでなく、学校や家庭、さらには地域において行うことができます。例えば、学校で学んだことを家庭や地域で実践したり、家庭や地域で実践した活動内容を学校で相互に伝え合うことができます。
- 環境教育・環境学習は、市民、環境保全団体、事業者及び市がそれぞれの役割を果たすとともに、連携を図りながら総合的に推進することが重要です。



こどもエコクラブの活動

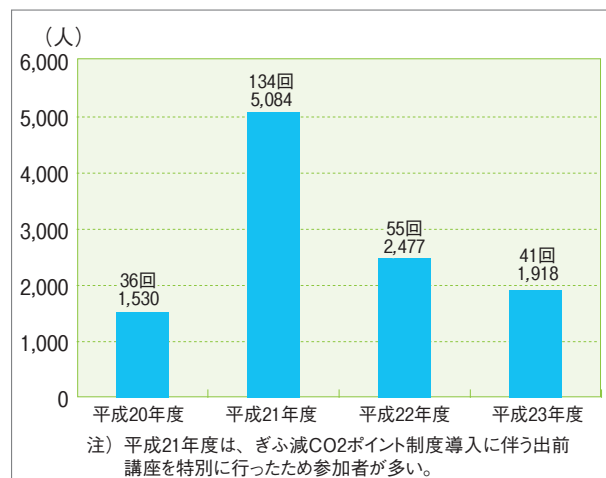


図1-1 自然共生部・環境事業部が開催した環境に関する出前講座等の参加者数

※11 岐阜市まるごと環境フェア/市民の環境意識の向上とその行動を促す「きっかけ」づくりを目的とした、市民参加型の環境イベント。

※12 出前講座/市民、環境保全団体、事業者の求めに応じて、市や企業等の担当者が講師となり、地域に出向いてお話しするもの。

※13 こどもエコクラブ/環境省の呼びかけによる、幼児から高校生まで誰でも参加できる環境活動クラブ。

(2) 課題

- 市民一人ひとりが環境問題を正しく理解し、行動を実践していくためには、環境について学ぶ機会を増やす必要があります。
また、学習内容を充実させ継続的に実施するとともに、自主的な環境保全活動に対して支援を行っていく必要があります。
- 環境教育・環境学習は、学校、家庭、地域が共通理解のもと、同じ歩調で進める必要があるため、環境イベントや学習会などの場を活用した連携の仕組みづくりや環境教育の支援体制の整備に努める必要があります。
- 身近な地域での環境活動を活発化するため、地域の核となる環境リーダーの育成や地域における環境活動の支援の充実を図る必要があります。

2 主な取組

(1) 環境教育の充実

- 新しい学習指導要領^{※14}などに基づき、発達の段階に応じた環境教育を行うとともに、各学校での特色ある取組を支援します。
- 環境問題に子どもが関心を持ち、自主的に研究や学習ができるよう、小学校や中学校などの教育機関と連携し、環境教育を推進します。
- 大学などと連携し、専門的知識や技術を活用しながら環境教育を推進します。

(2) 環境学習の推進

- 子どもから大人まで気軽に楽しく環境学習に参加できるよう、生涯学習「長良川大学」の公開講座や出前講座の内容を充実し、市民等の環境意識の高揚を図ります。
- 岐阜市まるごと環境フェアなどの環境イベントやリサイクル学習バス「シビック・アクション号^{※15}」などの体験型学習を活用し、市民等の環境問題への関心を高めます。
- 岐阜市自然・環境保全学習センターなどの環境教育施設の機能を充実させ、体験・参加型の環境学習の場を積極的に提供します。
- 環境イベントや学習会などの場を活用し、それぞれの主体が連携した仕組みづくりや環境教育の支援体制の整備に努めます。
- 地域の中で子どもたちが体験し学ぶ、こどもエコクラブの活動、また、自ら環境に対する考えを深めるアースレンジャー子ども会議^{※16}や学生環境会議の活動などを積極的に支援し、環境を大切に作る心を育みます。
- 環境カウンセラー^{※17}などを利用して、地域の核となる環境リーダーの人材育成・支援を行うとともに、ネットワークづくりを推進して活動の活性化を図ります。



学生環境会議

※14 学習指導要領／文部科学省が、全国どの地域でも一定水準の教育を受けられるよう、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めたもの。

※15 シビック・アクション号／地域（自治会）が企画する、ごみ処理施設や資源化施設などの見学を支援する事業で使用するバスの名称。

※16 アースレンジャー子ども会議／岐阜市の未来を担う子どもたちが、環境学習などを通じて感じたこと、考えたことについて発表や話し合いを行い、意見交換を通じて環境に対する考えを深めてもらう会議。

※17 環境カウンセラー／環境保全に関する専門的知識や豊富な経験を有し、その知識や経験を基に、市民や事業者等の環境保全活動に対して助言等を行うことができる人材として、環境省の実施する審査に合格した人。

(3) 環境保全活動への支援

- 市民、環境保全団体及び事業者が主体的に行う環境保全活動に対し、場の提供、制度の活用、人材の派遣、情報発信など、必要に応じて複合的に支援を実施します。

(4) 協働取組の推進

- 達目洞ヒメコウホネ特別保全地区の指定保全管理団体による保全活動などを実施し、市と市民との協働による自然環境の保全を積極的に推進します。
- 環境保全活動への積極的な参加を促すため、環境市民ネットワークぎふ^{※18}の活動をとおして環境保全団体間のネットワークを充実させ、市民、環境保全団体、事業者及び市のすべての主体が連携・協働して、情報を発信するとともに参加の場の提供がされるよう努めます。



達目洞自然の会(保全管理団体)

(5) 環境情報の周知・啓発

- 環境基本計画に掲げる施策の取組状況については、岐阜市まるごと環境フェアなどの環境イベントや出前講座、市が発行する環境白書などを通じて情報発信します。
- 自然・環境活動情報サイト「ぎふネイチャーネット^{※19}」などを活用し、市内の自然や環境保全団体の活動を紹介します。
- 自然とのふれあい活動の機会の充実を図るため、金華山や達目洞における環境学習プログラムを提供します。
- さまざまな環境関連情報を広く収集し、ホームページ、広報ぎふ、テレビやラジオ、岐阜市まるごと環境フェアなどのイベントを活用しながら情報を発信し、すべての主体と情報を共有するよう努めます。



岐阜市まるごと環境フェア

※18 環境市民ネットワークぎふ／自然環境及び生活環境の保全と創造を図るため、環境保全団体によるネットワークを構築し、環境問題を統合的に考え、広く連携しながら「よりよい環境づくり」と「人にやさしいまちづくり」に向けて活動する組織。

※19 ぎふネイチャーネット／岐阜市の身近な自然を知り、未来へと引き継ぐための情報ツールとなることを目指して立ち上げた、自然・環境活動情報サイト。ぎふネイチャーネットHP (<http://www.gifu-nature.net/>)

3 指標と目標値

指標名	現況値 (平成23年度)	目標値 (平成29年度)	指標の見方
総合的な学習の時間における環境教育の時間数	30時間	現状維持	小学校で行われる、総合的な学習の時間における環境教育の時間数(市内全小学校の平均時間)
出前講座への参加者数	1,918人	2,450人	環境に係る行政出前講座への参加者数(各年度の目標値は、平成23年度の現況値に対し毎年度5%ずつ増加した数値)
環境保全活動支援回数	57回	65回	市、環境保全団体が単独又は協働で、他の環境保全団体が行う環境保全活動を支援する回数
環境基本計画の認知度	15%	20%	岐阜市まるごと環境フェアで行うアンケート調査結果による計画の認知度

岐阜市 子ども環境宣言2012

私たちのまち岐阜市は、みどり豊かな金華山、清流長良川、伝統ある鶺鴒など、自然や歴史・文化に恵まれたまちです。

この豊かな自然や歴史・文化は、先輩たちがそうであったように、私たちが受け継ぎ、未来に引き継ぐ、岐阜市の宝ものです。

いま、私たちのまわりでは、地球温暖化や異常気象など、大きな変化がおきようとしています。この先、私たちの地球は、岐阜市はどうなってしまうのでしょうか。

私たちは、学校や地域で、どうしたらこの豊かな自然や歴史・文化を守ることができるかを学び、活動しています。しかし、子ども達だけでなく大人の皆さんも一緒に考え、行動することが大切です。

私たちは、みんなで取り組む行動を宣言します。岐阜市の子ども達、市民の皆さん、一緒に、考え、行動しましょう。

- 環境に悪い影響をもたらすものを環境にやさしいものに変えて環境を守る。
- ゴミを水の中などに捨てず、資源化(3R)をしてゴミを減らし、植物を大切に、森・川・海の空気や水をきれいにし、生き物を守る。
- ペットは飼い主が責任を持って最後まで飼う。
- 物をくりかえし大切に使用したり、水を使いすぎないなど、ひとりひとりが意識してムダ使いをなくす。
- 食べ物を捨てなくていいように、食べられる量だけ作って、きれいな物でも残さず食べる。
- 小さな心がけをする。

2012年11月4日

アースレンジャー子ども会議参加者一同



アースレンジャー子ども会議